

市の本年度の指導の重点

- ◎ 学ぶ楽しさを実感し、学び続けるための「確かな学力」を育む教育の推進
- ◎ 命の尊さやふるさとの大切さを自覚し、共に生きるための「豊かな心」を育む教育の推進
- ◎ 体を動かす楽しさを体感し、たくましく生きるための「健やかな体」を育む教育の推進

三教研の研究テーマ（第14期）

社会に参画していこうとする子どもの育成をめざし、仲間とかかわりながら問題の解決を図る社会科の授業

教育課程のねらい

- ・豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成
- ・自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成
- ・基礎的・基本的な内容を重視し、個性を生かす教育の充実
- ・国際理解を深め、わが国の文化と伝統を尊重する態度の育成

研究主題

「社会に参画していこうとする子どもの育成をめざし、仲間とかかわりながら問題の解決を図る社会科の授業」（4年目）

- ◆ 「社会に参画していこうとする子ども」…「持続可能な社会」を実現するために、自ら積極的に社会事象をとらえ、問題点を考え、いろいろな人や組織と思いを共有し、協力したり対立を処理解決したりしながら、行動することが求められる。そのため求められる資質や能力は、
 - ・資質…**確かな社会認識、価値判断、行動力**
 - ・能力…**コミュニケーション能力**こうした資質を養い、能力を身につけさせることにより、社会の一員として責任ある行動がとれ、より良い社会を創れる人間を育てたい。
- ◆ 「仲間とかかわりながら」…仲間とは、共に学び合う学級の子どもたちだけでなく、**学びを通してかかわる人たちもすべて含めたもの**を意味する。
 - ・追究において、自分だけでは限界のあることも、同じような考えや、異なる考えをもつ仲間との話し合いを通して、互いの考えを理解し合う。
 - ・学習の対象となる人とかかわりを深め、その人たちを自らの仲間として意識することで、学びをより確かなものとする。
- ◆ 「問題の解決を図る」…問題とは、子どもが身近な社会事象にふれたときに生まれた疑問を、意見交換や話し合いにより整理していくことで**焦点化**される、はっきりさせたいこと。
 - ・解決を図るための方法…一人調べ、小集団討議、全体での話し合い、学んだことの発信、行動など**【キーワード】関連づける、選択する、再構成する**
 - ・解決のレベル…全体での追究により、少なくとも価値観の共有化や合意を図りたい。さらに協力して社会に提案したり、行動したりすることも期待したい。さらなる問題意識が生まれ継続すれば、社会に参画する姿につながる。

【本年度の重点】

「子どもが持続可能な社会の実現に向け、仲間とかかわりを通して動き出そうとする姿の実現」

子どもが、国内外や自分の住む地域に山積する課題に目を向け、自分も社会を構成している一人の人間として、より多くの人々が幸せになれる社会（持続可能な社会）を作っていくためには何が必要かを考え、仲間とかかわりの中で自ら判断し、動き出そうとする姿を実現したい。

その基礎となるのは確かな社会認識力である。より多くの人々が幸せになれる社会をつくるためには、まず、社会の現実を見極める力が必要である。そのためには、ひとりよがりな考えで満足するのではなく、多面的な思考によって、より高度な社会認識力を養いたい。さらに、学ぶ過程において、子どもが自分の思いや考えを率直に述べ合うことで、対立から合意への転換を意図し、友達の考えのよさに共感したり、そのよさを自分の考えに取り入れて、より深まった考えをもったりすることを意図して指導を進めたい。そして、より多くの人々が幸せになれる社会の実現のために自分にできることを考え、動き出そうとする姿を求めていきたい。

- ◎ 子どもが合意形成を進める中で、自分の考えを的確に伝えたり、友達の意見に共感したりよさを取り入れたりするためには、どのような支援や称賛が有効であるかを継続的かつ多面的に検討する。
- ◎ 物事を多面的に考え的確に判断する力を育て、持続可能な社会の実現に向けて自分なりに参画できる方法を考えられる力を育てるためには、どのような単元構成や支援が必要であるかを研究する。